

平成23年2月期 決算参考資料

米久株式会社
(東証一部：2290)

1. 当期の業績に影響を与えた主な項目

- 1) 記録的な猛暑が夏場の焼肉・バーベキュー需要と家畜の出荷に影響。また残暑長期化が鍋物商材にも影響
- 2) 国内食肉相場は全ての畜種において上期まで低迷するも、下期は前年を上回る水準に回復、売上増に寄与
- 3) 国内鶏肉相場の回復を受け、プロイラー関連事業会社の業績が改善
- 4) 加工品原料価格が前期を下回るとともに生産の効率化も寄与し、ハムソーセージ製造会社が大幅増益
- 5) 為替(対USドル)が大幅な円高で、輸入調達コストが低下
- 6) 大洋ポークを設立し、養豚事業に進出、アイポークの事業拡大を含め豚肉事業を強化
- 7) 昨年9月に埼玉南支店を開設、首都圏における営業力を強化
- 8) ふじやまビール株式を昨年3月に売却、持分法適用会社は1社(ときめきファーム)に
- 9) 当期末の連結子会社数は前期末と同じ13社(増加:大洋ポーク・広島県東部養豚組合、減少:吉野屋、その他:鶏肉事業会社2社を統合)
- 10) 前期のブラジル産冷凍鶏肉の相場急落および北米産冷蔵豚肉への新型インフルエンザの影響が解消

(参考情報)

一昨年12月にチムニーの全株式を譲渡、同社は当期より連結除外(影響額:売上高393億円、営業利益30億円)

2. 当期(平成22年3月1日～平成23年2月28日)の連結業績

	当期実績	前期実績	伸び率(%)	前回(3Q)予想
売上高	136,049	168,717	19.4	138,000
営業利益	1,917	4,387	56.3	2,070
経常利益	1,999	4,539	56.0	2,130
当期純利益	1,220	2,863	57.4	1,180
E P S (円)	44.04	100.09	-	-
R O E (%)	3.3	7.9	-	-
R O A (%)	3.6	6.9	-	-

注1) ROAは事業利益(営業利益+営業外収益)にて算出しております。

注2) チムニー(株)につきましては、前期連結P/Lには同社業績を含みますが、連結B/Sからは除外しております。

3. 連結業績の推移

金額単位 百万円

	平成19年2月期	平成20年2月期	平成21年2月期	平成22年2月期	平成23年2月期
売上高	145,777	166,046	172,613	168,717	136,049
営業利益	4,083	4,102	4,646	4,387	1,917
経常利益	4,079	4,103	4,635	4,539	1,999
当期純利益	1,043	2,189	1,001	2,863	1,220
純資産	36,790	39,805	40,666	37,191	37,756
総資産	71,053	77,465	83,903	61,371	61,262
一株当たり純資産:円	1,183.60	1,227.30	1,227.52	1,335.32	1,360.30
一株当たり当期純利益:円	36.30	76.18	34.85	100.09	44.04

4. セグメント別業績の推移

金額単位 百万円

		平成19年2月期	平成20年2月期	平成21年2月期	平成22年2月期	平成23年2月期
売上高	加工品・食肉事業	106,017	117,362	129,628	125,254	
	外食事業	29,987	36,414	40,678	41,199	
	その他事業	9,772	12,268	2,306	2,263	
	連結合計	145,777	166,046	172,613	168,717	
営業利益又は損失	加工品・食肉事業	1,640	940	1,211	1,151	
	外食事業	2,312	3,032	3,443	3,186	
	その他事業	105	100	28	32	
	消去又は全社	25	28	21	17	
	連結合計	4,083	4,102	4,646	4,387	

注) H23/2期はセグメント業績を開示しておりません。

5. 連結子会社一覧

金額単位 百万円

会社名	持分割合 (%)	売上高	総資産	事業内容
米久かがやき(株)	100.0	13,620	3,979	ハム・ソーセージ・デリカ製品の製造
米久デリカ(株)	100.0	5,993	2,236	ハム・ソーセージの製造
(株)日宏食品	100.0	1,727	353	ソーセージの製造
アンゼンフーズ(株)	100.0	5,029	2,956	冷凍デリカ製品の製造・販売
(株)セブンフードサービス	100.0	2,912	1,227	冷凍デリカ製品の製造・販売
国内加工品生産会社計		29,282	10,752	
YONEKYU U.S.A.,Inc.	100.0	2,133	892	ソーセージの製造
海外加工品生産会社計		2,133	892	
米久おいしい鶏(株)	100.0	9,693	3,725	鶏肉の生産・加工・販売
(株)マルフジ	100.0	2,024	421	牛肉の加工・販売
アイ・ポーク(株)	100.0	2,090	635	豚肉の加工・販売
大洋ポーク(株)	100.0	-	660	豚肉の生産・加工・販売
(農)広島県東部養豚組合	-	-	1,188	養豚
食肉供給会社計		13,808	5,442	
御殿場高原 ビール(株)	75.8	1,765	864	地ビールレストランの経営
外食・レストラン経営会社計		1,765	864	
(株)平田屋	100.0	1,361	714	菓子の製造・販売
その他の会社計		1,361	714	
< 連結子会社合計 >		48,351	18,667	

その他、持分法適用会社1社

・加工品・食肉事業

ときめきファーム(株)

注1) 米久東伯(株)とおいしい鶏(株)は、平成23年2月に合併し、商号を米久おいしい鶏(株)と変更しました。

注2) (株)吉野屋は平成23年2月に清算しました。

但し、当期連結P/Lには同社業績が含まれており、その売上高は、3億94百万円です。

注3) (農)広島県東部養豚組合は、当期に連結の範囲に加わった大洋ポーク(株)との間に人的関係が認められているため、連結の範囲に含めておりますが出資関係はありません。

6. 当期の業績

(1) 売上高

加工品・食肉事業分野では、前期に引き続き、第4次中期経営計画の基本戦略に沿って販売数量拡大を推進しました。まず、デリカテッセンは主力製品の好調などにより、売上高・数量が増加しました。ハム等も数量を伸ばしましたが、単価の下落により売上高は微減となりました。また、ソーセージは不採算アイテムの整理により、売上高・数量とも減少しました。しかしながら加工品全体では、売上高・数量とも増加しました。次に、食肉は、豚肉・牛肉・鶏肉の全ての畜種において売上・数量ともに増加しました。畜種別では、まず豚肉は、国産の増加に加え、前期に数量を落とした北米産冷蔵豚肉も回復しました。次に牛肉は、国産の数量が前期並みとなった一方、輸入品が大きく伸びました。最後に鶏肉は、国産も輸入品も大幅に増加しました。これらの結果、食肉他全体の売上高は大きく増加し、加工品を含めた売上高全体は増加しました。なお、昨年12月にチムニー(株)の全株式を譲渡したことによる売上高の連結除外影響は、393億31百万円です。

以上の結果、当期の売上高は、326億68百万円減少の1,360億49百万円(前期比19.4%減)となりました。

(2) 売上総利益

食肉の国内相場が回復したものの、加工品単価の下落などにより、単体の売上総利益率は前年並みとなりました。加工品製造子会社では、主としてハム・ソーセージ製造の米久かがやき(株)と米久デリカ(株)が、主・副原料価格の低下や不採算製品の整理により、売上総利益が拡大、また、デリカテッセン製品製造のアンゼンフーズ(株)も大幅増益となりました。次に食肉関連子会社では、プロイラー関連事業を行う米久東伯(株)とおいしい鶏(株)も国産鶏肉相場の回復を受け、売上総利益が増加しました。

なお、チムニー(株)の連結除外影響は253億36百万円です。

以上の結果、当期の売上総利益は、241億50百万円減少の192億14百万円(前期比55.7%減)、売上総利益率は前期比11.6ポイント下落の14.1%となりました。

(3) 販管費、営業利益

単体において、主として加工品主原料在庫の圧縮により保管料が減少したものの、人件費の増加などにより、販管費全体は2.5ポイントの上昇となりましたが、売上高の伸び率を下回ったため、売上高販管費比率は前期比0.1ポイント低下の10.1%となりました。

なお、チムニー(株)の連結除外影響は222億70百万円です。

以上の結果、当期の販管費は、216億81百万円減少の172億96百万円(前期比55.6%減)となり、売上高販管費率は10.4ポイント低下の12.7%となりました。

(4) 営業外損益、経常利益

営業外収益が3億32百万円減少、営業外費用は2億60百万円の減少となりました。なお、営業外に含まれる持分法による投資利益は、ときめきファーム(株)の増益により1億26百万円の増加となりました。

なお、チムニー(株)の連結除外影響は営業外収益が2億59百万円、営業外費用が1億37百万円です。

以上の結果、経常利益は25億40百万円減少の19億99百万円(前期比56.0%減)となりました。

(5) 特別損益、税金等調整前当期純利益、当期純利益

特別利益は、前期にチムニー株式売却益として43億45百万円計上したことなどにより47億81百万円の減少、また特別損失は、固定資産除却損や減損損失の減少などにより4億8百万円の減少となりました。

これらの結果、税金等調整前当期純利益は69億13百万円減少の19億43百万円(前期比78.1%減)となりました。また、法人税等は43億89百万円減少、少数株主利益はチムニーの連結除外などにより8億80百万円の減少となりました。

以上の結果、当期純利益は16億43百万円減少の12億20百万円(前期比57.4%減)となりました。

7. 次期業績予想の前提と主な取り組み

- 1) 第5次中期経営計画の初年度として、引き続き食肉・加工品の販売数量拡大を見込む
- 2) 食肉の国内相場は、前年からの回復傾向が続き、食肉生産子会社の業績向上に寄与と予想
- 3) 加工品の主・副原料価格は前年を若干上回ると見込む
- 4) 為替レートは足元を勘案し、1ドル = 85円と予想
- 5) 経営統合した米久おいしい鶏(株)は大幅増益を見込む
- 6) 前年設立した大洋ポーク(株)が養豚事業拡大に通年で寄与する
- 7) 全国営業拠点網の整備を推進
- 8) 東日本大震災による特別損失として米久かがやき(株)輝工場のデリカテッセン設備復旧費用など2億円を見込む
- 9) 資産除去債務に関する会計基準の適用を受け、初年度の対応として特別損失1億50百万円を見込む
- 10) 三菱商事(株)、伊藤ハム(株)との三社包括業務提携を継続推進、提携効果創出を加速

8. 次期業績予想

金額単位 百万円

	上 期		通 期	
	金 額	伸び率(%)	金 額	伸び率(%)
売 上 高	72,500	10.4	150,000	10.3
営 業 利 益	830	2.8	2,400	25.1
経 常 利 益	880	6.5	2,500	25.0
当 期 純 利 益	250	50.5	1,280	4.9
E P S (円)	9.02	-	46.19	-

9. 設備投資及び減価償却費

(1) 設備投資額 金額単位 百万円

		金 額	主な内容
連 結	当期実績	1,663	加工品事業分野の製造設備更新等 5億98百万円 食肉事業分野の鶏肉処理設備及び排水処理設備更新 4億58百万円
	次期予想	2,200	ハムソー生産設備増強 8億44百万円 システム関連投資 2億11百万円 おいしい鶏 能力増強 6億54百万円 大洋ポーク豚舎増改築 2億12百万円

(2) 減価償却費 金額単位 百万円

		金 額
連 結	当期実績	1,995
	次期予想	2,580